

# 事業報告 令和5年度 教育事業

## 自然体験活動上級指導者

### (NEAL インストラクター)養成研修

令和5年11月3日(金)～5日(日)

【対象】NEALリーダー取得者

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

#### 1. 趣旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験活動上級指導者（NEAL インストラクター）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅱ）を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。

#### 2. 事業の概要

(1)期日 令和5年11月3日(金)～5日(日)

(2)参加者 12人（資格新規取得10名、資格更新2名）

(3)主任講師 桑山 宗大 氏（国立妙高青少年自然の家 次長）

(4)講師

平野 吉直 氏（信州大学 理事・副学長）

井上 透 氏（岐阜女子大学 文化創造学部 教授）

関根 健吾 氏（公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 部長）

梅津 孝一（国立信州高遠青少年自然の家 所長）

国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

(5)日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
11/3 (金)					開講式 ガイダンス 【平野吉直氏】	自然体験活動 の特質 【平野吉直氏】	昼食	自然体験活動の安全管理 【井上透氏】	宿泊棟へ 移動 休憩	夕べのつどい	夕食	休憩	学校教育における 体験活動 【自然の家所長】	入浴 休憩				
11/4 (土)	起床 準備	朝のつどい	朝食	準備	対象者理解 【企画指導 専門職】	自然体験活動の指導 【関根健吾氏】	昼食	自然体験活動 の指導	自然体験活動の技術 【関根健吾氏】	夕べのつどい	夕食	休憩	対象者理解 【企画指導専門職】	入浴 休憩				
11/5 (日)	起床 準備	朝のつどい	朝食	荷物整理 清掃 退所点検	自然体験活動の企画・運営 【自然の家所長・関根健吾氏】	昼食	自然体験活動の企画・運営 【自然の家所長・関根健吾氏】	認定 試験	ガイダンス 閉講式	解散								

#### 3. 企画運営のポイント

- ・参加者が自然体験活動プログラムを企画するために必要な内容を、体験的な活動を通じて学ぶことができるプログラムを設定した。
- ・各講義の内容や活動を横断的に行うことで、各講義の意義や理解の深化を図った。

#### 4. 参加者の声と主な活動

- ・活動プログラムの企画運営時に目的、内容、方法を意識する事と地域の要素（資源、環境、産業等）を理解することの重要性を学ぶことができました。（自然体験活動の特質）
- ・データに基づいたお話で、自然体験活動の危険・施設での事故の起こる場所は「外」とイメージしていて、そのイメージに沿って考えていた自分に気づくことができました。エビデンスを持って対策する大切さを学びました。（自然体

### 験活動の安全管理)

- ・法律でも体験活動について定められていること、学校が宿泊体験学習をする根拠などを確認することができました。  
(学校における体験活動)
- ・対象者の個別的理解がいかに大切か、それぞれの特性について詳しく体感しながら知ることができました。(対象者理解)
- ・指導を受けた体験活動は経験がなく新鮮でした。自分たちで相互に行った体験活動では発見や気づきがあり、講師の指導も参考になりました。(自然体験活動の指導・技術)
- ・ただプログラムを実施するだけでなく、その目的や狙い、背景を明確にすること、導入・展開・まとめの流れを大切にすることを学ぶことができました。(自然体験活動の企画運営)

アイスブレイク



自然体験活動の特質



自然体験活動の安全管理



自然体験活動の指導



自然体験活動の指導



自然体験活動の技術



自然体験活動の技術



対象者理解



自然体験活動の企画運営



## 5. 成果と課題

①参加者アンケート結果 アンケート回収 10名 (資格新規取得のみ、回収率 100%)

養成研修全体を通して	満足 : 10名	100%
	やや満足 : 0名	0%
	やや不満 : 0名	0%
	やや不満 : 0名	0%

○「自然体験活動の指導」「自然体験活動の技術」で参加者にそれぞれ自然体験活動プログラムを考えてもらった。その内容を「対象者理解」の講義の中で特別な配慮を要する対象者を考慮して改めて考えるなど、講義・演習を

横断的に行うことで、参加者が活動プログラムを考える際に配慮する内容等についてより深く学ぶ機会となった。

- 「自然体験活動の企画・運営」において、参加者に個人パソコンを持参してもらい、インターネットやアプリ等を活用してプログラムを検討してもらうことで、より多面的な情報を分析、整理してプログラムを企画することができた。
- 日程が非常に厳しく、遠方から来られる参加者は時間的にも体力的にも大変であった。対面実施とオンラインのそれぞれの良さを考慮し、一部のプログラムをオンラインやオンデマンドにするなどの検討も必要であると思われる。